

2014年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、ヨーロッパの北、カナダ東部、太平洋北部では正偏差、地中海付近では負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、日本付近で平年の位置と比べて南偏した。寒帯前線ジェット気流は、シベリア付近で明瞭だった。対流圏の気温は北極周辺と南半球高緯度を除いて広く高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近、日付変更線付近、太平洋東部で平年より活発、インド洋、フィリピンの東海上、南米北東岸で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインド洋、中旬に海洋大陸、下旬に太平洋を東進した。対流圏下層の太平洋赤道域では、上旬と中旬に東風偏差で、下旬には西風偏差に転じた。対流圏上層では、チベット高気圧は西側で平年より弱かった。南方振動指数は+0.2だった。

世界の天候

2014年6月の世界の月平均気温偏差は+0.32°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

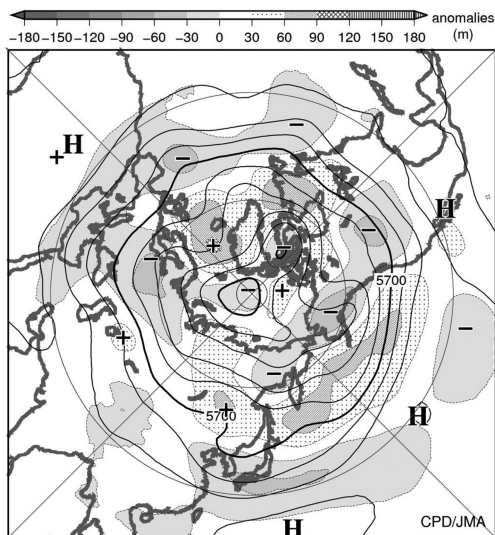
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ロシア北西部～トルコ西部で異常多雨となった。
- 南米中部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

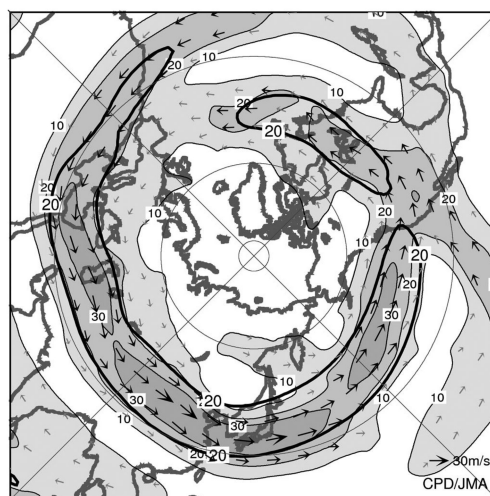
※より詳細な情報については、気象庁ホームページ

「気候系監視速報」をご覧ください。

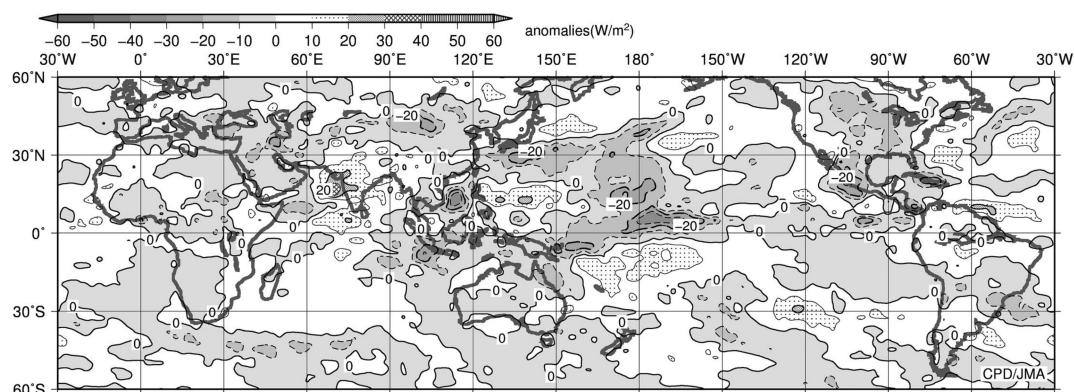
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年6月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

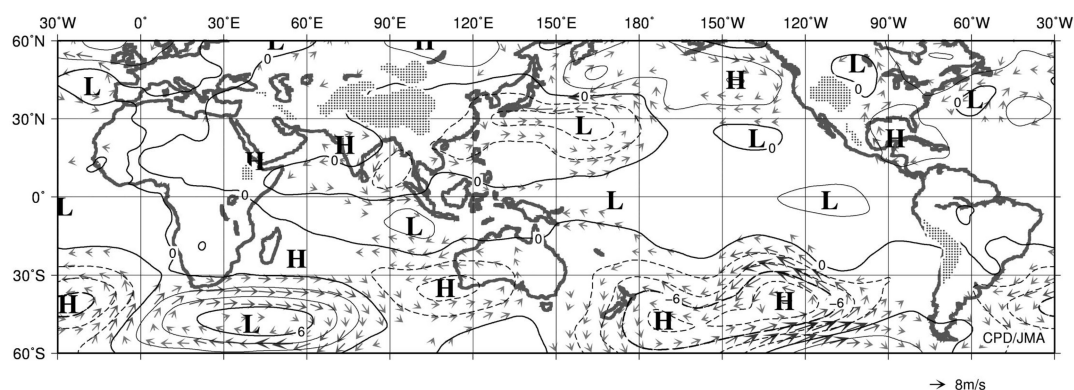


2014年6月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は10 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



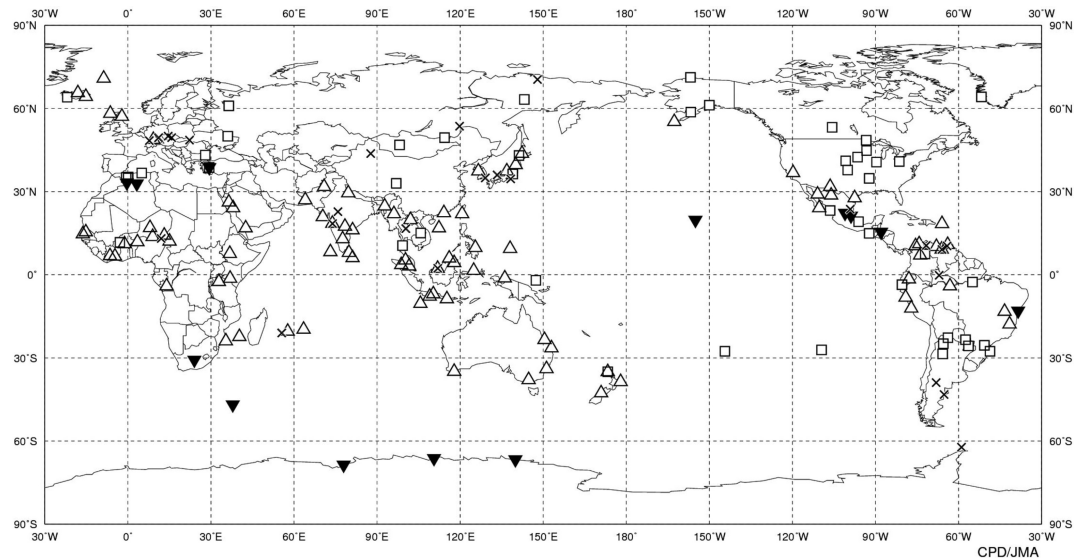
2014年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。